

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成 29 年度採択）

中間評価（案）（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評 価
29-2	対流型地域圏における自動走行システム普及に向けた新たな道路ストック評価手法	東京大学 教授 原田 昇	B
<p><研究の概要></p> <p>中山間地域の人流・物流ネットワークへの自動走行システムの導入・普及を目指し、道の駅を拠点とする自動運転サービスの実用化を目指した実証実験を通じて、自動運転に対応した道路インフラと地域の小さな拠点となり得る道の駅が有すべき機能を明確化し、自動走行対応型道路ネットワーク整備計画の立案と、ストック評価のためのデータプラットフォーム及び自動走行対応型道路の路線計画評価モデルの開発を行う。</p> <p><中間評価結果></p> <p>個別研究項目それぞれに対し着実に検討を進め知見を蓄えるなど成果をあげている。しかし、研究全体を通じて得る道路ストック評価手法を、実務者にもわかりやすく、利用しやすいものとすべきとの指摘があることなどから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><今後の研究計画・方法への指摘事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 道の駅を拠点とする自動走行サービス等の実装に向けて、実効性のある研究成果となることを期待する。最終的に得られる研究成果が、政策評価や交通計画を担う実務者にとって、わかりやすく、利用しやすいものとなるよう工夫を加えつつ、確実なとりまとめを行っていただきたい。 2 つ目の研究項目である「自動走行サービス評価手法」が、個別モデルの集積に終わるのではなく、全体として首尾一貫した評価が実現できるものとなるよう、研究を進めていただきたい。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 36 回新道路技術会議において審議したものである。